

(7) 2022 年 (令和 4 年) 11 月 17 日 (木曜日) **物流 Weekly**

ユーエイ ベトナム人実習生が活躍

国内の中小企業で外国人材の受け入れが進んでいる。新型コロナウイルスが流行した2020年以降も受け入れが増えており、関心は年々高まっている。

世の中に新しい付加価値を提供するキャスター総合メーカーのユーエイ（雄島耕太社長、大阪府東大阪市）では、ベトナム人実習生が関東、奈良、福岡の各工場で活躍している。今回は奈良額田部工場（大和郡山市）で勤務するベトナム人実習生のグエン・ドウック・ナムさんと、上司であるゴム成形係係長の前田意仁氏、班長の乾幸史氏に話を聞くことができた。

ナムさんは特定技能制度で2019年10月に来日。同工場では4人の実習生が働いており、ナムさんは日本語が



ナムさん

ためのプレス加工などを担当している。

前田係長は「日本語が日に日にうまくなっているのが分かる。本人の努力の賜物」と話す。「真面目に取り組む姿勢は、私だけでなく一緒に働いている社員たちにとっても励みになっている。実習生4人全員が真面目で、仕事も積極的に取り組むので、私は今後とも実習生を受け入れたいと思っている」

工場では、コミュニケーションのやり方を見直し、一つひとつより丁寧に説明するようになった。大型の機械など、特に危ないシチュエーションは強調して伝え、日本語では伝わりづらい言葉はジェスチャーや翻訳機などを使いながら、コミュニケーションを図っている。社員全員で実習生に日本語を教えるようになってから、工場内全体

のコミュニケーションが活性化されたという。

ナムさんのことを「眼差しのまっすぐさが、実直な性格を表している」と話す乾班長は、「仕事に対する姿勢がまじめで、この3年で技術は飛躍的に向上した。工場にはなくてはならない大事な存在。日本語も上達し、たまに関西弁が混じるようになった」と笑う。

「日本語がうまくなるために、日本語能力試験のN3を目指したい」と意欲を見せるナムさん。休日は「近くの公園でサッカーをしたり、自転車で出かけたりのことが多い」と話す。また、「日本に来てから写真を撮ることに好きになりました」と、撮影した美しい風景写真を見せてくれた。

現在キャスターの売れ行きが好調なことから、奈良額田部工場も忙しく稼働している。前田係長は「今後も実習生が活躍する環境を整えていく。ナムさんには今後も、技術を磨き後輩実習生のお手本となる存在でいて欲しい」と話した。

（木村麻理奈）